

2021年度 京都大学医療系一回生対象  
早期体験実習 報告書

---

京都大学医学部医学科・人間健康科学科

京都大学大学院薬学研究科



2021 年度 京都大学医療系 1 回生対象 早期体験実習・報告書

もくじ

1. はじめに -----	2
2. 早期体験実習の目的と概要 -----	6
3. 学生による実習プログラム評価 -----	12
4. 受け入れ医療機関からのフィードバック -----	22
5. 協力医療機関一覧 -----	24
6. 編集後記 -----	25

# 1. はじめに

早期体験実習Ⅰは、京都大学医学部医学科・人間健康科学科・薬学部の一回生が参加する多職種連携教育として2013年度にスタートしました。今年度も、医療機関及び医療者の皆様のご協力の下、学生たちは未来の医療者の土台形成につながる体験をさせていただきました。お世話になった皆様に、心から感謝申し上げます。

2021年度も、コロナ禍のために1回生の来学制限や授業オンライン化などが行われ、この実習でも病院に伺って学修するという体験は断念せざるを得なくなりました。しかし、この実習の意義は変わりありません。学生たちは入学したばかりで、医療についての知識や経験がほとんどなく、「将来どのような医療者を目指すのか」「何のために大学で勉強するのか」などの点で学ぶ点は大きいのです。私たち3科は、本年度もコロナ禍で何ができるかを考えました。

早期体験実習では、①自分の目指す医療者への理解、②医療での多職種連携への理解、③患者の視点からの医療への理解の三点を柱としています。病院に伺うという手段はとれませんでした。昨年度に加えてさらにたくさんの病院、たくさんの職種の方々の協力を得て、医療現場や医療プロフェッショナルたちの仕事にビデオを通じて触れることができました。そのなかで医療者としてのやり甲斐と厳しさを理解し、今後の学部生活でどのような医療者を目指し、何を学ぶべきかを掴んでくれたと思います。

病院やクリニックの医師をはじめとする職員の皆さまが、コロナで大変な困難のなか、新入生のためを思っていただき、ビデオの準備やオンラインでの語りなどきめ細やかなご指導をしていただきました。ご協力に、改めて深く感謝致します。

2022年3月

京都大学医学教育・国際化推進センター

小西靖彦

今年度も、医学部人間健康科学科の学生を、早期体験実習に受け入れて下さり、心より感謝申し上げます。昨年度に引き続き、COVID-19対策で、大変な1年間でしたが、その中で、オンラインで実習を行っていただいた医療機関の皆様、医学教育・国際化推進センターの小西靖彦教授はじめ関係者の皆様に、御礼を申し上げます。

医学部人間健康科学科は、組織改革、入試改革を行い、医療専門職資格を持たない学生も卒業する総合医療科学コースを新設し、今年度、第1期生の多くが大学院に進学いたしました。たとえ、将来、医療専門職資格を持たない学生にも、医学医療にかかわる研究や仕事を続けていくうえで、医学を学び始める時期での早期体験実習は、強い印象を残したと思います。また、これから医学、医療を学んでいく強い動機付けとなり、将来自らが目指す医療人について考える機会になることを期待しています。

今後も医学部医学科、薬学部と合同で行っていただく、早期体験実習は、自らの体験を、他の職種を目指す学生さんたちと語り合うことで、視野と人間関係を広げることを期待しています。

学生の皆さんが、他では得がたい貴重な体験をさせていただいたことを、本誌を拝見して改めて強く感じました。COVID-19パンデミック期間中にも関わらず、このような機会を実現していただきました関係各位に、心より御礼を申し上げます。

2022年3月  
人間健康学科長  
足立壯一

京都大学薬学部では、早期体験実習の一環として、1年次夏季に「多職種連携医療体験実習」を実施しています。

「多職種連携医療体験実習」では、以下の3つの目的を掲げています。

1つ目は、医療機関における実習を通じ、患者とコミュニケーションを取ることで患者の視点から見た医療、病院とは何かを理解することです。これから薬学を学び薬剤師や創薬研究者となる上で、医療現場を知り患者側の立場に配慮できる心を養い、医療に関わる一員としての自覚を高められることを期待しています。

2つ目は、社会における薬剤師の役割や職能を体験的に学び理解することです。医療現場で薬剤師が抱える課題や問題点を知り、将来の薬剤師のあり方やこれからの学びの目的と対象を考えるきっかけになることを期待しています。

3つ目は、医師や看護師の職能と役割について、観察やインタビューを通して知り、多職種が連携してどのように医療を支えているかを理解することです。他の医療者の視点を感じ、チーム医療の中で薬剤師が担うべき役割や習得すべき能力とは何かを考えることを期待しています。

実習後には、医学部医学科・人間健康科学科の学生と合同で「事後ワークショップ」を開催します。事後ワークショップでは、学生同士が実習先での体験について意見交換を行い、上記3つの目的についての一層の理解を育んでいます。他の医療系の学生との協同作業は、様々な職種・部署から成り立つ医療現場や製薬企業など将来の活躍の場で、異分野・異業種による創発的な議論の進め方を考える第一歩にもなっています。

2021年度は昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、医療現場での実習を行うことが適いませでした。しかしながら、医療現場の動画やZoomオンラインセッションを通じて、多くの医療機関の先生方から学生の教育・指導を頂きましたお陰で、学生は医療機関の先生方にふれあい、多くのことを感じ学ぶことができました。先生方の献身的なご支援とご厚情に深く感謝申し上げます。

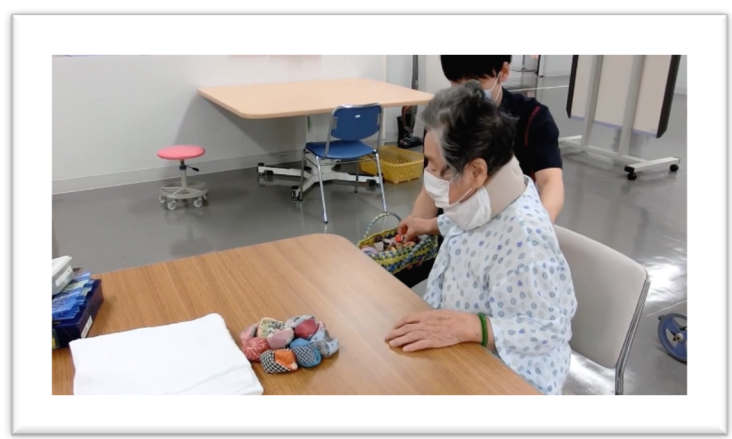
2022年3月  
京都大学大学院薬学研究科長  
加藤博章



10:00  
看護ケア  
清拭・おむつ交換  
口腔ケア・



血液検査部門では、医師と血液像を見たり、マルク（骨髄像）を一緒に読んだりしています。



## 2. 早期体験実習の目的と概要

本実習は、旧「外来患者支援ボランティア実習」を改編して2013年度から行われていたものであり、京都大学医学部医学科及び人間健康科学科、薬学部の一回生を対象としています。今年度は、医学科111名、人間健康学科12名、薬学部15名が参加し、全国の21の病院のご協力をいただき、実習をさせていただきました。新型コロナウイルスの影響のため、各医療機関に作成いただいた動画による学習とZoomを用いたオンラインセッションによる実習となりました。

今年度の早期体験実習の目的は、次の3つにあります。

### 1. 医療者の仕事を理解する

自分が目指す医療者の仕事について、自分で調べたり、様々な病院の医療者からのメッセージをもとにして、どのような医療者・研究者になりたいかを考えます。

### 2. 医療における多職種連携を理解する

学生は、将来医療者として協働する他職種がどのような仕事をしているのか、どのようにしてチーム医療に取り組んでいるのかを理解することを目指します。このことを通して、自分が目指す医療者に何が求められているのかも掴むことを目指します。

### 3. 患者の視点から、医療・病院を理解する

社会や患者の視点からみた医療・病院とは何かについて、興味や問題意識に沿って調べたり、他の学生との対話を通して深めます。

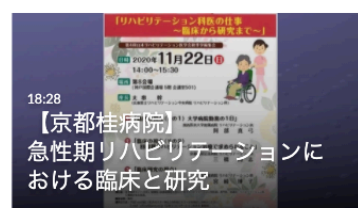
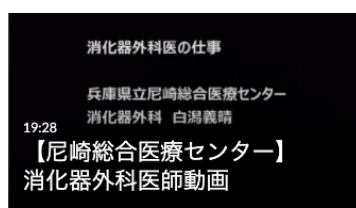
これらの目的をもった実習を通して、学生には、高校生から医療専門職者の卵へと「移行」してもらうこと、すぐれた医療専門職者になるためにはどのような学習・成長が自分には求められているのかを、実感として理解してもらうこと、を期待しています。

以上の目的及び意図をもつ本実習プログラムは、次ページにあるスケジュールに沿って進められます。「Zoomセッション」や「事後ワークショップ」などの機会に、医学科・人間健康科学科・薬学部の学生が「多職種グループ」を編成して、実習を通して得たことや考えたことを共有し、上記3つの点について理解を深められるように工夫しています。



## 早期体験実習スケジュール

5月	<p>第一回 事前ガイダンス (実習目的の共有、「私の実習目標」の作成)</p>
6月-8月	<p>自己学習 (「私の実習目標」に関連したテーマについて調べる)</p>
7月	<p>第二回 事前ガイダンス (動画視聴の案内、医療者への質問の検討)</p>
7月-8月	<p>医療現場の動画による学習 (各医療職やチーム医療など 31本の動画を視聴)</p>
8月-9月	<p>オンライン (zoom) での実習の実施 (現場の医療者との対話や質疑応答)</p>
9月末	<p>事後ワークショップ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 課題レポートを持参し、グループで成果発表</li> <li>● チーム医療についてのグループ・ディスカッション</li> </ul>



## 医療現場の動画による学習

18 病院から合計 42 本の学習用動画を提供いただきました。動画の長さは、5 分～25 分で、医師、看護師、薬剤師、検査技師、レントゲン技師、リハビリ職（PT/OT/ST）、チーム医療に関するものをそれぞれの医療機関にご協力いただきました。昨年度、臨床検査技師や診療放射線技師、チーム医療に関する動画が少なかったことを踏まえて、新たに 15 本の動画を追加しました。

### <医師> 6 本

- 【兵庫県立尼崎総合医療センター】医師動画
- 【天理よろづ相談所病院】医師の働き方
- 【倉敷中央病院】研修医採用動画
- 【市立島田市民病院】医師動画
- 【滋賀県立総合病院】医師編
- 【尼崎総合医療センター】消化器外科医師動画

### <看護師> 5 本

- 【兵庫県立尼崎総合医療センター】紹介動画（看護師）
- 【倉敷中央病院】看護部のご紹介
- 【仁和診療所】看護師の仕事
- 【市立島田市民病院】看護師動画
- 【豊岡病院】看護部紹介動画

### <薬剤師> 10 本

- 【天理よろづ相談所病院】薬剤部プロモーション
- 【倉敷中央病院】薬剤部紹介（病棟薬剤師の 1 日）
- 【倉敷中央病院】薬剤部紹介（安心の監査システム）
- 【倉敷中央病院】薬剤部紹介（調剤のいま）
- 【倉敷中央病院】薬剤部紹介（曝露しない抗がん剤調製）
- 【倉敷中央病院】薬剤部紹介（救急センターでの薬剤師の活躍）

- 【倉敷中央病院】薬剤部紹介(手術室での薬剤師の活躍)
- 【倉敷中央病院】薬剤部紹介(若手薬剤師にインタビュー)
- 【仁和診療所】薬局薬剤師の仕事
- 【豊岡病院】薬剤部紹介動画

#### <臨床検査技師> 2本

- 【滋賀県立総合病院】臨床検査編
- 【豊岡病院】検査技術科紹介動画

#### <診療放射線技師> 4本

- 【京大病院】放射線部紹介動画
- 【京大病院】放射線部診療放射線技師動画
- 【豊岡病院】放射線技術科紹介動画
- 【天理よろづ相談所病院】放射線技師部門紹介

#### <理学療法士/作業療法士/言語療法士> 4本

- 【京大病院】リハビリテーション部紹介
- 【仁和診療所】診療所リハビリテーション
- 【滋賀県立総合病院】リハビリテーション
- 【豊岡病院】リハビリテーション科紹介

#### <チーム医療> 3本

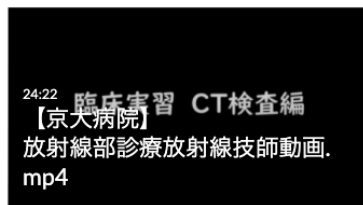
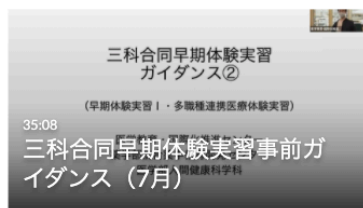
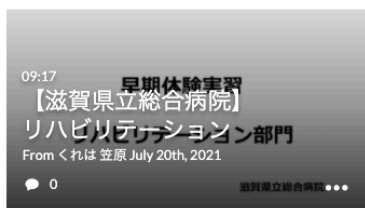
- 【京都桂病院】PCU\_チーム医療動画
- 【日本バプテスト病院】多職種連携(発熱外来)・小児専用発熱外来紹介
- 【大津赤十字病院】働く人たち(教えて!チーム医療)

#### <病院紹介> 4本

- 【大阪府済生会野江病院】実習用動画
- 【金井病院】病院紹介
- 【大坂赤十字病院】病院紹介
- 【高槻赤十字病院】病院紹介

<その他> 4本

- 【京都桂病院】急性期リハビリテーションにおける臨床と研究
- 【神戸西病院】相次ぐ看取り 押し殺す感情 神戸・西市民病院レッドゾーンルポ
- 【高槻赤十字病院】救護活動
- 【三菱京都病院】身体と心の痛みを取り除き、がんと向き合い、よりよく生きるためのケア



## オンライン（zoom）での実習の実施

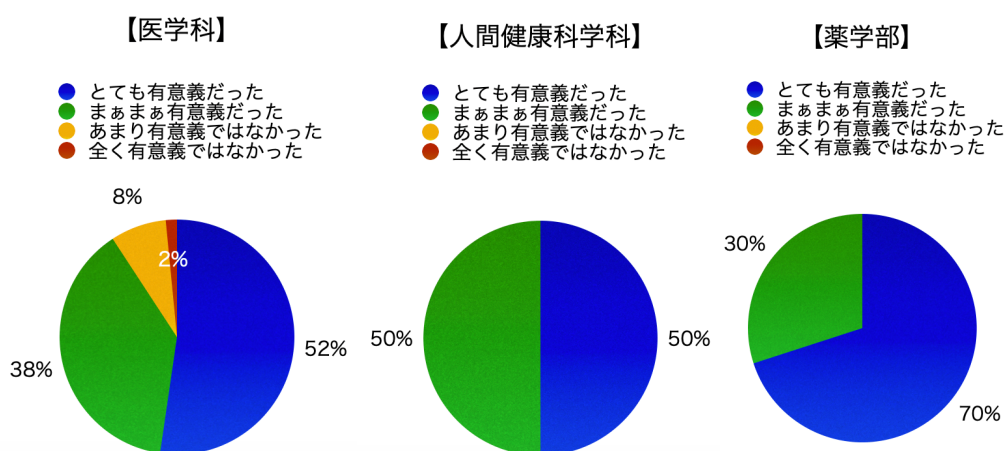
12 病院の先生方にご協力いただき、各回 12 名程度の学生が参加して、医療現場のことや働き方のことなどの質問にお答えいただきました。

日程	時間	病院名	担当の先生
8/23(月)	15:00	大阪赤十字病院	住本真一先生(小児科)
8/26(木)	13:00	倉敷中央病院	福岡敏雄先生 (総合診療科・救命救急)
8/27(金)	15:00	大津赤十字病院	河南智晴先生(消化器科)
8/27(金)	17:00	京都桂病院	岸信之先生(精神科)
8/30(月)	14:00	天理よろづ相談所病院	八田和大先生(総合内科)
8/31(火)	16:00	日本バプテスト病院	小林正行先生 (医務部・血液内科部)
9/1(水)	10:00	日本赤十字社 和歌山医療センター	吉田晃先生(小児科)
9/3(金)	15:00	済生会野江病院	相原顕作先生(呼吸器内科)
9/6(月)	14:00	枚方公済病院	竹中洋幸先生(救急科・循環器内科)
9/6(月)	17:00	豊岡病院 但馬救命救急センター	永嶋太先生(但馬救命救急センター)
9/8(水)	10:00	滋賀県立総合病院	山本秀和先生(外科)
9/9(木)	17:00	公立小浜病院	菅野元喜先生(外科・消化器外科)

### 3. 学生による実習プログラム評価

(2021年9月23日実施 授業評価アンケートから)

1. 実習全体を通して、今回の実習は、あなたの学びにとってどれくらい有意義でしたか。



#### 【概要】

昨年度同様にオンラインでの実習ではありましたが、大半の学生が有意義だったと振り返っていました。動画やオンラインでのセッションを通して、様々な医療従事者の役割や仕事の内容に触れられたこと、コミュニケーションやチーム医療の重要性を感じられたことなどが大きかったと思います。一方で、実際に現場を訪れて学びたいという切実な声も多くありました。動画も Zoom セッションも昨年度以上の内容と量になり、自主的に調べる学生も多かったです。調べ学習ではなく体験を通して学びたいという意見も多かったです。

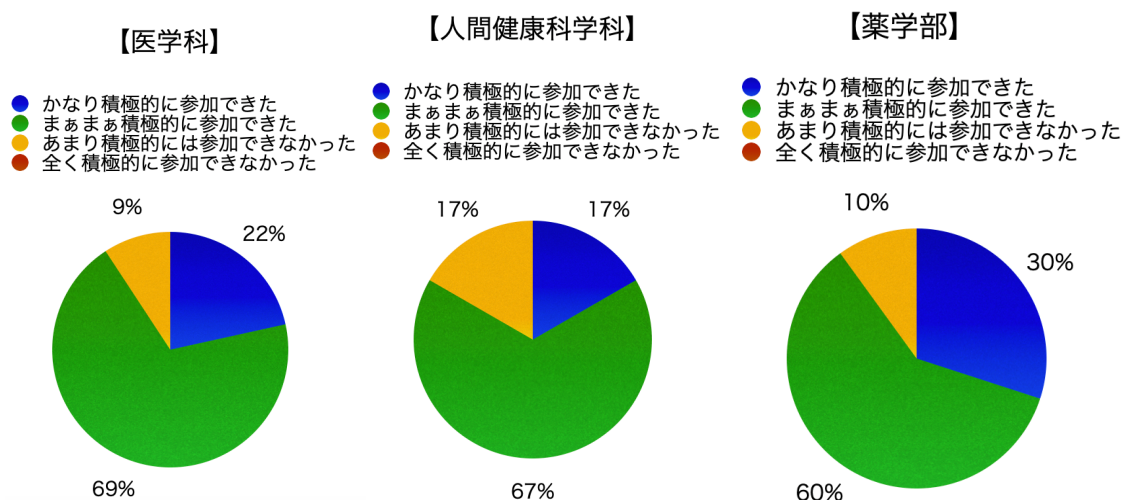
- ✓ 普段は知ることのできない医療者の方の声を聞くことができた。
- ✓ 実際に現場で働いている先生の話を知ることができる機会であり、将来について深く考えることができた。
- ✓ 他職種連携が医療においていかに根幹を担うものであるかが実感できた。医療従事者の話をきいて実際の臨床を知ることができた。
- ✓ 医師以外の職種の仕事内容を知る機会が今まで少なかったので、勉強になりました。
- ✓ 特に医師以外の業務について知ることができた、また、コミュニケーションの大切さな

ど、自分が今まであまり考えてこなかったことを考えることができた。

- ✓ 実際に足を運べない分物足りなさはあったが、事後ワークショップで新たな発見もあり有意義だった。
- ✓ オンラインのメリットもかなり活かしたセッションだった。
- ✓ 一回生の早いタイミングでやることで二回生以降の専門授業のモチベーションがすごくあがった
- ✓ 各職種の仕事内容を動画で知り、さらに調べようと興味が湧き自己学習につながった。今回の実習がチーム医療についての理解と興味が深まる機会となった。
- ✓ コロナ禍の中でも、緩和ケア病棟で働く医療者の方々のお話をお聞きできたのは勉強になり、貴重な機会だと思った。
- ✓ 皆さんの医療に対する意見を聞いた。
- ✓ 学科を超えてチーム医療や自身の目指す医師像について有意義な話し合いができた
- ✓ 人間健康科学科で行った実習とはまた別の学びが得られたから。

- ✓ 実際に病院を見学できなかったから。
- ✓ 患者さんと話す機会がなかった(仕方がないが)
- ✓ 動画コンテンツやオンラインセッション、事後 WS はとても有意義なものでしたが、臨床での経験と比較すると、劣ると思いました。
- ✓ いろんな病院の動画を見る事ができて有意義ではありましたが、実際に病院での実習を行った先輩たちからの話を聞くと、それには勝らないと思いました。
- ✓ 新たな発見がたくさんあったが、実際に病院に訪れたかった気持ちがあります。
- ✓ オンラインセッションが主に一般的なコミュニケーションについてで、特別医療に関わるものではなかった。
- ✓ Zoom セッションの内容が薄く少々もの足りなかったため。
- ✓ オンライン質疑応答などでは、学ぶことが多く面白かったが、自主的な勉強はあまりできなかったから。(自分の姿勢の問題)
- ✓ オンラインで病院の方のお話を拝聴する、という流れだったが、オンラインだと距離感をお互い掴めなかったようで、先生も話す内容を纏めるのに苦労しているようであったし、お互いあまり込み入った話は出来なかった。時勢柄仕方ないことではあるが、オンラインだったことが原因だと思う。
- ✓ 結局、調べ学習のみのような感じになってしまった。
- ✓ 必ずしも自分で調べたり考えたりすることで得られる情報量を上回るコンテンツが多かったわけではなかったように思える。
- ✓ 将来研究をメインに考えているが、話を聞いたのが臨床関係者だけだったから。

## 2. 病院との Zoom セッションにはどのくらい積極的に参加できましたか？



### 【概要】

オンライン（zoom）セッションでは、多くの学生が「まあまあ積極的に参加できた」と回答しました。オンラインゆえの発言しにくさ、何を質問していいかわからない、という学生もいましたが、昨年度に比べると事前学習をしっかりと、興味や関心のあることを質問している学生が多かったです。なんでも質問してよいという雰囲気をつくってくださった先生方のご協力もあり、学生にとってもいろんな話を聞く機会になりました。

- ✓ 実際の医療現場で働いている方のお話を聞く機会は今までほとんどなく、興味深いものが多かったから。
- ✓ さまざまな分野の方がお話してくださったことが興味深かったこと
- ✓ 事前アンケートで自分の知りたいことを整理できたから。
- ✓ 事前にチーム医療についてより深く知りたいという個人的なテーマがあったため、テーマに関する質問を行い、Zoom セッションに参加できた。
- ✓ 事前に提出していた自分の質問を先生が多く取り上げてくださり、自然と積極的に発言できたから。
- ✓ 事前に聞きたいと思っていたことについて詳しく教えて頂け、また他の方の質問もさまざまな視点があり、全てが何らかの形で自分の糧になると感じました。



- ✓ 事前に出していた質問だけでなく、当日に与えてくださった時間の中で新たに自分が疑問に思ったことを自分の言葉で医療者の方に伝えることができたから。
- ✓ 病院関係者の方々が気さくで、質問しやすい雰囲気だったので、たくさん聞くことができた
- ✓ 多職種の医療従事者さんに直接質問できるまたとない機会だったから。
- ✓ ドクターヘリやドクターカーなど馴染みの深くないことについてのお話を伺うことが出来て興味深かったから。
- ✓ 先方が準備してくださっていたスライドが少なく、大幅に時間が余って気まずくなりそうな空気だったので、少しでも質問を出せるよう頑張ったから。質問したいことが多くあったため。

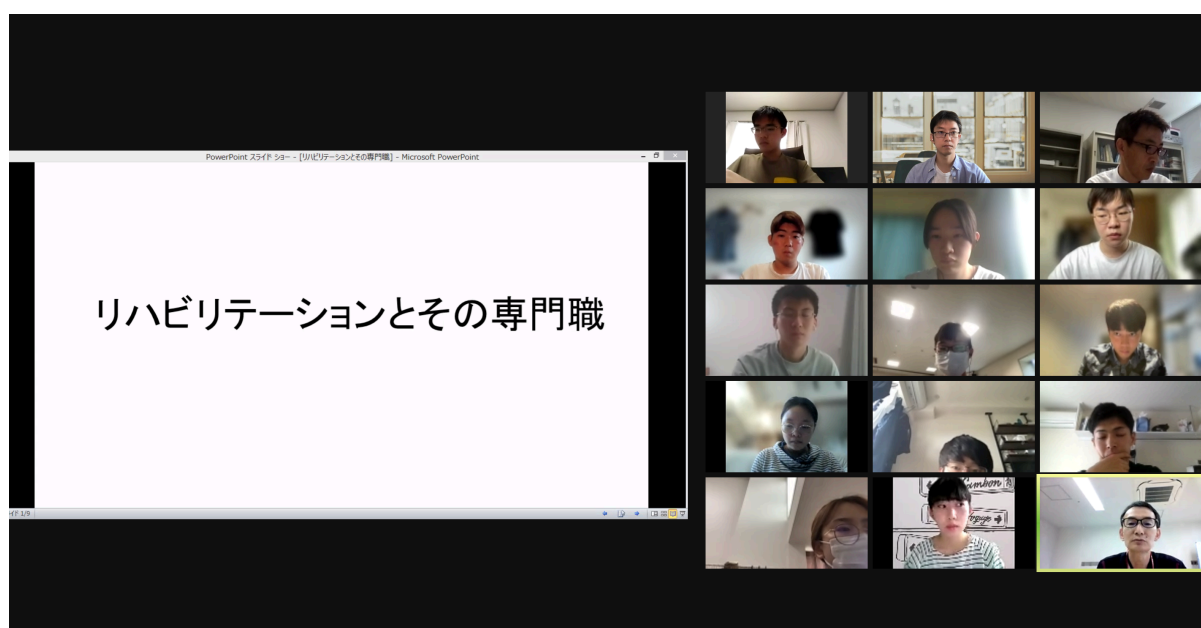
- ✓ ズームなので積極的に発言しにくかった。
- ✓ オンラインだと空気が読みにくかった。
- ✓ 自分から質問ができなかった。
- ✓ 発言する機会があまりなかった。
- ✓ あらかじめ送った質問に答えてくださる形だったので、新たに尋ねる内容がなかった。また説明が長引き質問をする時間がなかった。
- ✓ あまり知らなかった内容ばかりに圧倒され、お話を聞くだけになってしまった。
- ✓ 少し人数が多かったので話出しづらかったです。
- ✓ 自分がいったい何について知りたいのか、明確でなかった。
- ✓ 緊張してしまった。



3. 病院に協力いただいた実習（動画視聴・zoomセッション）を通して、その内容や対応で良かった（勉強になった、興味深かった）と感じたことは何でしたか？

- ✓ それぞれの職種の一日に密着した動画が勉強になりました。
- ✓ チーム医療の動画で、多くの職種の方のそれぞれの意見がまとめられていたものは考え方の合致や相違が分かりやすく、勉強になり良かったです。
- ✓ 実際に働いている方の声が聞けたこと、実際の患者さんの例をみさせていただけしたこと
- ✓ 現場の映像をたくさん見せていただいたこと。
- ✓ 病院の中を実際に歩いてくださった動画があって、興味深かった。全体的に説明も詳しくて面白かった。
- ✓ 今年はオンライン開催ではあるものの、やはり現場の医療者の生の声を聞けることは大変有意義であった。
- ✓ 医師、薬剤師、看護師とそれぞれの分野の方々が質問に答えてくださったこと。
- ✓ 様々な職種について学んだことで、新たな職種や立場について非常に興味を持ちました。
- ✓ ZOOMセッションでは医師の他に理学療法士の方もいらっしゃっていて、またその方達の専門外のこと（例えば看護師の仕事）などについても、その方達から見た様子などを教えて下さいました。
- ✓ 現場の人の話を伺えて、共感の具体的姿勢など参考になった。看護師長の方が非常に素敵で、臨床に進むのならこのような信頼感と親しみのあるプロフェッショナルになりたいと思った。
- ✓ 学生一人一人の質問に非常に丁寧に答えていただきありがたかったです。特に、薬剤師の仕事内容が変化するというお話が興味深く、印象に残っています。
- ✓ チーム医療において何が大きかがわかった。
- ✓ 実際に他の職種の人に助けてもらったエピソードを紹介してもらったこと。
- ✓ へき地医療について知ることが出来た
- ✓ 先生方がフレンドリーだった
- ✓ 一人一人の質問に丁寧に答えてくださったのがよかったです。
- ✓ コロナ禍での病院の変化についてはとても興味深かったです。
- ✓ 全人的医療。
- ✓ スライドで分かりやすくまとめて下さっていて、救急医療やチーム医療について興味を持てた。医療におけるコミュニケーションの大切さを学んだ。
- ✓ 患者さんの希望にできるだけ沿いながら、辛抱強く医療行為をすることが大事だということ。

- ✓ 緩和ケア病棟でのチーム医療の話で、医療者同士の意見が合わない時は患者のために必要なことを考える、という軸がぶれないことが重要であるという話は勉強になった。
- ✓ 患者さんと病院の関係について、今一度考え直す契機をいただいた。
- ✓ 将来外科医になりたいと考えているので、日々どのような仕事をしているかなどについては興味深く感じた。
- ✓ 臨床医には一人の患者を深く追求して最善の結果を求める力と、最低限必要な対応をして明日につなげ、現場を回す力の二つの力が求められるということは今までの自分にはない考え方であり興味深かった。
- ✓ 実際に医師として活躍されている方々から学生生活の中でしておくの良いことを伺えたのは有意義でした。
- ✓ 学生のうちに接客のバイトをしておくというよいことを知れたこと。
- ✓ 医学部出身の研究者は、基礎的な研究は他学部が得意とするので、臨床に根ざした研究をすべきというアドバイスを貰ったこと。オンデマンドだからこそいろいろな病院・職種を幅広く見学する形で知ることができ、興味があった医師の仕事内容についても理解を深めることができた。



4. 病院に協力いただいた実習（動画視聴・zoomセッション）でよくなかったと感じたことは何でしたか？改善してほしいことなどもあればお答えください。

- ✓ やはりオンラインということもあり、実感は湧かなかった。
- ✓ 実際に病院に行く機会がなかったのが残念でした。
- ✓ 病院に行けなかった、様子を知らなかった。
- ✓ 対面が良かったです(もちろん無理なことは承知です)。
- ✓ コミュニケーションが実際にどのようにとられているのかについては、動画では限界があるので、また、機会があれば、病院に行って実習を行いたいと思いました。
- ✓ 実習先の紹介動画がなかったこと。
- ✓ 動画の投稿のタイミングがバラバラだったので、少し視聴しにくいと感じた。
- ✓ 医師、看護師、薬剤師などについてはたくさん動画があり知ることができたが、作業療法士や理学療法士、管理栄養士などの動画はあまりなかったり、あったとしても数が少なかったこと。
- ✓ 動画が自分の将来歩んでゆくキャリアや興味に必ずしもそぐわなかったこと。
- ✓ 診療放射線技師の動画がかなり専門的で私には難しかったです。専門的な内容よりは、何のためにこの検査をするのかといった根本的なことが中心であれば良かったと思います。
- ✓ 動画も大半は良かったのですが、何本かが自身の病院のPRのようになっており、正直視聴しても有意義ではなかったと思うものがありました。調べればすぐに見れるような内容（例えば病院の建物紹介（テラスがあるとか）、その病院の強み、特徴）などは少なめにして、調べても個人では見れないような内容（例えば手術の様子、病理や検査室などの内部、カンファレンスの様子など）を増やしていただければ、より学ぶものが多かったと思います。
- ✓ お忙しいので仕方のないことですが、もう少しコロナ禍の病院の様子が知りたかったです。(動画がコロナ禍より前のものが多かったため)
- ✓ 動画視聴は単なる人材勧誘のような、いかに素晴らしい和気藹々とした職場かというアピールに終始するものもあり玉石混交。ほとんどは玉であるが。
- ✓ 技術的な問題かと思うのですが、少々音が小さくて聞き取りづらいビデオがありました。内容面は大変勉強になりました。
- ✓ 動画実習の際に、動画で話している方の声が機械などの音であまりよく聞き取れないことがあったこと。
- ✓ あまり動画が長すぎてもなかなか見ようとは思えないので、20分くらいにはまとめて欲しい。
- ✓ 動画視聴が少し多かった。

- ✓ 動画視聴の期間が短かった。テスト週間であまり見るができなかった。
- ✓ あらかじめ提出した質問を読み上げていただいたので、積極的に質問する気持ちにならなかった。
- ✓ 研究関連ももっと増やして欲しい。
- ✓ もう少し長い時間聞きたかった。
- ✓ お忙しいとは思いますが、zoom セッションで様々な職種の方にご参加いただけたらよかったです。私の参加したところでは、医師の方のみのご参加でしたが、事前に院内の複数名の薬剤師さんにアンケートをとってくださり、とても有り難かったです。
- ✓ 医師の視点からの意見は聞けましたか、患者や社会から見た医師や病院についてはあまり聞けなかったもので、残念でした。
- ✓ お医者さんが話す時が多すぎた気がする。
- ✓ zoom でもう少し多くの方の意見をお聞きしたかった。
- ✓ もっと双方向で対話ができたらよかったです。
- ✓ 京大の先生が質問をまとめて一人で話すよりも学生が直接聞いた方が印象に残りやすいかなと思いました。
- ✓ 内容が薄くなりがちで、何を伝えたいのか、何を聞き出すべきなのか不明瞭であったこと。
- ✓ 一般的なコミュニケーションの話が少し長かったこと。
- ✓ 各診療課科の強みや、他との違いについてもう少し知りたかったです。
- ✓ 医学科以外からの参加者が少なく、学部的人数比が偏っている点。
- ✓ チーム医療の中でもある1つに絞って（例えば ICT など）、各職種間の働きや連携の仕方などを教えていただけると、さらに理解を深めることができたかなと思います。実際にどのように会議をしているかなども見せて頂けると嬉しいです。
- ✓ 個別の患者さんや症例に基づいてのチーム医療の流れの説明などがあった方が分かりやすかったと思う。オンライン形式で患者さんのプライバシーの問題もあって難しいと思うが、個別の事例も交えての説明の方がイメージは湧きやすい。
- ✓ スライドがもらえたら事後学習に便利だったかもしれないです。病院見学风に病院内を見てみたかったです。

#### 【コメント】

今回の授業では、現場の医療専門職の働き方やチーム医療を中心に扱っていることもあり、なかなか診療科ごとの違い、研究職としてのキャリアというテーマまではカバーできないところがあります。Zoom セッションで学生の発言を促すということも課題です。

5. その他、実習全体を通して、来年度への提案、要望などがあれば自由にお答えください。

- ✓ オンラインだからこそ、様々な病院のお話を聞くことができ、非常に良い実習になりました。対面ができるようになって、動画での学びなどは継続する価値があると思いました。
- ✓ 多くの医療者さんのインタビューを見て、いろんな考え方を吸収できるので、動画形式は続けて欲しいです。
- ✓ 実際に行けるならばやはり実際に病院に行けた方がいいと思いますが、動画で学べることも大きいので、病院実習と動画学習の両立がいいのではないかなと思いました。
- ✓ 実習に参加を決めた当初は、オンラインであるしどのくらい身になるのか懐疑的ではありましたが、確かに、オンラインならではの不便さ(病院内に入れない等)はありましたが、実際に働いている方のお話を聞くことができたのは貴重であったし、実習をきっかけに自分で新しく調べ始めることもできたのでとても良かったと思っています。人間健康科学科のなかでも色んな興味や関心を持つ人がいましたが、その枠を医学部に広げるともっといろいろな考えの人がいるとわかり、楽しかったです。この実習に参加できて良かったです。ありがとうございました。特に配信して頂いた動画はとても勉強になりました。

- ✓ オンラインだと話す内容、見て感じ取れる情報が格段に減ると痛感したので、実地での実施にしてほしい。
- ✓ コロナが落ち着いたら、やはり実際に病院に行くべきだと思う。
- ✓ 事前学習をしっかりと事前にこなしているかの確認などがあれば良いと思いました。
- ✓ 自分が何をフォームで質問したかを忘れたので質問をメモしておくようにという注意が欲しかったです。
- ✓ 病院とのオンラインセッションの時間はもう少し長くしてほしいなと思います。
- ✓ 事後ワークショップをもう少し早い時期にしてほしい。
- ✓ 病院とのオンラインセッションは医療者と話す機会として貴重だと思ったが、ワークショップについては、学生の意見だけでなく、病院関係者にどのような話を聞いたのかを共有する時間があるといいと思った。
- ✓ 貴重でかつとても有意義な時間であったと感じたので、学生同士での意見交換の場があると数回多ければもっと多くのことが学べたのではないかと思います。
- ✓ 夏休みで自己学習の時間も取れる時期なので、もっといろいろな方とお話できれば良かったと思います。

- ✓ 診療科間での違いについても取り上げて下さると嬉しいです。
- ✓ 研究関連を増やして欲しい。

#### 【コメント】

対面での開催希望に関しては、今年度も多くありました。新型コロナウイルスの感染状況から、医療現場を訪れての実習は引き続き難しいですが、少しでも学びを深められるように工夫できればと思います。三科合同で学ぶ機会であり、学生同士での学びの質も向上させたり、お互いに深められる機会もさらに検討していきます。Zoomセッションでの発表や発言をしやすくする工夫、学んだり調べたことをアウトプットする機会を設けられたらと考えています。

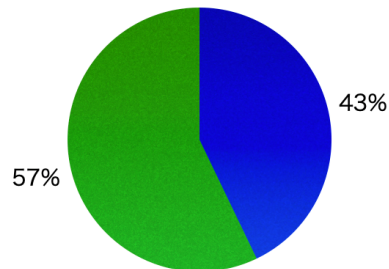


## 4. 協力医療機関からのフィードバック

4-1 本実習（動画視聴+Zoom セッション）は学生にとって有意義だったと思いますか？

### 【本実習は有意義か】

- とても有意義だと思う
- まあまあ有意義だと思う
- あまり有意義だと思わない
- 全く有意義だと思わない



- ・非常に熱心に質問されたから。
- ・学生の皆さんが現在知りたい事を医師に直接話しを聞く機会は貴重だと感じました。短時間で多人数の学生さんに効率よく病院診療を伝えることができた。
- ・多職種の説明があり、チーム医療や在宅支援などの流れを理解してもらえたと思う。鉄は熱いうちに打つ方が良いと思います。6年間を有意義に過ごしていただくために。
- ・質問が私個人の見解を述べるものが多く、学生が有意義だったか不明。

4-2 本年度の実習の良かった点をお答えください

- ・質問した学生の名前が記されていたので、具体的に名前を呼びながら回答できた。
- ・オンライン開催のため学生さんは質問する事が恥ずかしい様子で直接医師に質疑された学生さんは1名でしたが、先生が変わりに多くの質問していただいた点が良かったと感じました。
- ・当院で、看護師（コロナ担当）、薬剤師、事務、医師の4職種が対応出来たこと。
- ・Web会議の運営がスムーズでよかった。



#### 4-3 本年度の実習の改善点についてお答えください

・たぶん、顔出しを徹底してもらった方が、よいと思います。私は学生が意欲もレディネスもまちまちなのを知っていますのであまり気になりませんが、やはり不快に感じる人もいるんじゃないかと、ひやひやしました。

あと、私たちの方としては、もう少し若手の医師も用意しておいた方がよいかな、と思いました。そちらから具体的に要望していただいてもいいかもしれません。

・私がしゃべりすぎたので、もう少し学生さん 1 人 1 人の質問の時間があってもよかったです。

・Web 上では特にありませんが、やはり実際に見学して欲しかったです。

#### 【コメント】

Zoom での顔出しは、双方向のやりとりのためには確かに必要だと考えます。原則として、カメラをオンにして顔が見える形で学生に参加するよう伝えていますが、当日の通信環境やプライバシーへの配慮などの観点から、どうしても難しい学生もいるかもしれません。基本的にはカメラをオンにして顔出しで参加するように伝えていきます。

#### 4-4 実習全体に関して、その他、自由にご意見をお願いします

・この実習が学生さん達にとって、将来の医療者としての動機付けの一端になれば幸いです。

・他の施設がどんなビデオを作っているか見てみたいです。

・事前の質問に沿って説明したつもりだが、もっと質問を受けられるように説明を短くし、主体的に関わってもらえるようにすればよかったですと反省しています。

#### 【コメント】

他の施設の動画に関して、動画を作成された医療機関の許可がいただければ、この実習に関わってくださっている他の医療機関の皆様にも視聴いただけるようにいたします。また、Zoom セッションの進行に関しては、ファシリテーターの方で工夫して、学生の質問を促せるような進め方やスケジュールを検討します。

## 5. 協力医療機関一覧

動画提供
尼崎総合医療センター
大阪赤十字病院
大阪府済生会野江病院
大津赤十字病院
金井病院
京都桂病院
倉敷中央病院
神戸西市民病院
滋賀県立総合病院
市立島田市民病院
高槻赤十字病院
天理よろづ相談所病院
豊岡病院
日本バプテスト病院
仁和診療所
兵庫県立尼崎総合医療センター
三菱京都病院

Zoomセッション
大阪赤十字病院
大阪府済生会野江病院
大津赤十字病院
京都桂病院
倉敷中央病院
公立小浜病院
滋賀県立総合病院
天理よろづ相談所病院
豊岡病院 但馬救命救急センター
日本バプテスト病院
日本赤十字社 和歌山医療センター
枚方公済病院

## 編集後記

今年度も新型コロナウイルスの影響下での実施となりましたが、多くの医療機関のご協力を得て、三科合同の早期体験実習を行うことができました。現場での診療や業務などへの負担も大きい中、動画作成や Zoom での学生との対話など、多大なご協力をありがとうございました。昨年度よりも動画の本数も質も高まり、現場の様子や仕事内容が伝わるものになりました。学生も熱心に自己学習も含めて取り組んでおり、各職種の内容やチーム医療についてなどの理解を深めることができました。この2年間の取り組みで、様々な医療機関や職種の内容を学ぶことができるコンテンツが増え、大きな財産となりました。今後、現場を訪れての実習が再開された際にも、事前学習用の動画として活用できるものと認識しております。また、Zoom での対話や質疑応答などは、オンラインゆえのコミュニケーションの難しさがありますが、各自の興味や関心、素朴な疑問などを深められたことが、当日の様子や事後ワークショップからも伺えました。

現場を訪れての実習再開は、2022 年度も難しいと考えておりますが、引き続きオンラインを中心としつつも充実した実習機会にしていければと思います。また、多くの医療機関の先生方から、病院訪問に関して歓迎の言葉をいただいております。状況が許すようでしたら学生の病院見学などの際にもご指導などいただけましたら幸いです。今後ともどうぞよろしく願いいたします。

2022 年 3 月 1 日

京都大学医学教育・国際化推進センター

京都大学医学部人間健康科学科

京都大学大学院薬学研究科

